

米国流グローバリズムが通用する時代ではなくなっている

松本康男（『今月の話題』2025年12月1日号より）

グローバリズムは普通にあるものだ

今回はグローバリズムを少し考えて見ようと思う。というのも、特朗普はグローバリズムが嫌いだという。その結果グローバリズムが衰退していくような主張を時々聞くようになったからだ。

(1) シルクロードとグローバリズム

グローバリズムは大航海時代に始まると言われるが、何のことはないシルクロードが既にグローバリズム起点となるはずだ。

東洋の文物に憧れこれを求めるという需要を満たすためにシルクロードが開発されたのだろう。今流に言えばサプライチェーンが確立されていたのだ。

(2) 大航海時代

シルクロードというサプライチェーンはオスマントルコにより分断された。しかし、欧州には東洋の文物に対するそれなりの需要があったはずだ。これに対応しようとしたのがスペインで、大西洋を西に行けば東洋にたどり着くと信じて西に向かって船団を繰り出したと言うことだろう。だから、カリブ海の島にたどり着いた時にその島を東インド諸島と呼んだのだと言うことになっている。インドに着いたと思ったのだろう。

もつとも、そうなるには地球は平面ではなく丸いという仮説が否定されなくなっていたと言うことがあったはずだ。そうでなければ船団は平面の縁から無間地獄に落ちてしまうはずだ。とは言え、まだ地球は丸は確認されていなかった。まさに冒険だったに違いない。

(3) 産業革命と帝国主義時代

産業革命は大量の原料と人口増大、都市化により大量の食料を必要とした。大量生産大量消費の走りだ。とは言え鉄と石炭の時代はそれでも欧米各国は自国内でその多くを調達できていたはずだ。しかし、資源の奪い合いで、フランスとドイツは常に不安定な状態に置かれていた。

(4) 第1次世界大戦と石油の時代

英国とドイツは経済的に強固に結びついていた。第1次世界大戦のとき、国内の主戦派の圧力が高くなてもウィルヘルム2世は戦争を嫌がっていたという。しかし、主戦派に押し切られ戦争が勃発したのだ。

中東の石油は19世紀初頭にイランで発見され、この後サウジなど続々と発見されることになる。石炭よりはるかにエネルギー効率の良い石油の大量供給が世界を変え戦争を変えた。敗戦国のオスマントルコが分割され、中東には石油開発のため欧米の資本が流れ込んできた。そのため中東は

一挙に政治的に不安定な地域となった。

(5) 戦間期と第2次世界大戦

第1次世界大戦は敗戦国ドイツの戦勝国による搾取と日本の勃興という結果で終了すると共に、ロシアの共産主義革命を引き起こしソ連という広大な共産主義国を作り出すことになった。

帝国主義全盛時代で世界各地に植民地が散在していた。資源を含め国際貿易は伸展していた。そこに大恐慌が襲うことになる。

第1次世界大戦で経済的に勃興した日本は植民地獲得で出遅れ、大恐慌で国内経済は疲弊し、515事件226事件で強力な政治力を持つようになった軍は政治を無視し独力で中国に攻め込むこととなった。

これを非難する米英など欧米の列強は日本への石油輸出を規制することにした。国内に油田のない日本は石油をオランダの植民地だったインドネシアに目をつけた。欧州ではドイツが優勢に戦争を進めているのを横目に見て、真珠湾攻撃と同時にインドネシアに進軍し、太平洋戦争が勃発した。どうも話が帝国主義と戦争の話ばかりになってしまったが、国際貿易は間断なく続いている、グローバリズムは継続していた。

(6) 第2次世界大戦後

共産主義の拡大に対して民主主義国の警戒感から冷戦の時代に入る。共産主義対民主主義と言うよりも共産主義対資本主義というべきかも知れない。その背景には世界各国の植民地の独立運動があったはずだ。各地の植民地の独立はものの移動を増大させたはずだ。経済のグローバル化はさらに進展したはずだ。日本は冷戦による朝鮮戦争やベトナム戦争で多大な経済的利益得ている。日本の高度成長は朝鮮戦争のおかげだといつても良いだろう。

(7) 米国主導のグローバリズム

米国がグローバリズムを言い出した時違和感があった。これは米国のグローバル企業が世界で仕事をしやすくするための口実だとしか思えなかったからだ。この施策で米国のグローバル企業は世界各地への進出を加速させた。進出のための障害を除去しておこうというのが狙いだったはずだ。ところがこれは米国にとってとんでもない副作用をもたらした。米国から工場が人件費の安い途上国に移転してしまった。ラストベルトの出現だ。

特朗普はこのラストベルトを救うといって大統領になった。さらにグローバリズムもやめるという。しかし、既にサプライチェーンは世界中に張り巡らされている。さらに米国の貿易面での力は落ちている。今の米国には金融とコンピュータソフト、そして軍需産業しか残っていないと言って良いだろう。普通の製造業を取り戻すには人手不足でとても難しい局面にあるのだ。

米国は鎖国しても食っていけるくらいの資源を国内に待っているが結局は輸入がなければ国民を満足させることはできないはずだ。米国でも特朗普が言うようなグローバリズムと手を切ることはとてもできないだろう。もう米国流グローバリズムが通用する時代ではなくなっているのだ。